

第2章 調査結果の概要

1. 幼年期

豊中市の幼年期：食育に関する特徴

（各設問の回答が多かったもの、特徴的なクロス集計結果及び過年度調査との特徴的な比較結果を記載）

- 「家族構成」は「親子」
- 回答者の「職業」は「無職」
- 「主に家庭で食事づくりを担当する人」は「母」で、「就労していない」。就労している場合は「常勤」か「パート・アルバイト」。前回調査に比べて「常勤」の割合が増加
- 「常勤」で働く人の1日あたり勤務時間は「8時間以上10時間未満」
- 「パート・アルバイト」で働く人の1週間あたり勤務日数は「3、4日」で、1日あたり勤務時間は「4時間以上6時間未満」か、「6時間以上8時間未満」

ふだんの食生活や子どもの食事について

- 「食材選定基準」は「鮮度」、「安全・安心」、「価格」、「賞味（消費）期限」、「産地」
- 「参考とする指針」としては「3色分類」、「6つの基礎食品」、「食事バランスガイド」
- 「直接廃棄頻度」は「よくある」と「時々ある」を合わせると56.2%
- 「食べ残しを減らす努力」を「必ずしている」
- 「環境への配慮」としては「必要な量だけ買う」、「食材や調理済み食品を適切に保存し、食べきる」、「食べきれない量だけ作る」、「旬の食材を使う」
- 特に、2歳よりも大きなお子さんに「食事の手伝いをさせている」。ただし、前回調査に比べて「手伝いをさせている」割合は12ポイント減少
- 「手伝いの内容」は「食べ終わった食器を引き上げる」、「食器を並べる」。前回調査に比べて「食べ終わった食器を引き上げる」が大幅に増加
- 「別メニューの食事」は「あまりない」
- 「家庭での食生活の様子」は「おいしく食べられる」、「明るい」、「食事が楽しい」

食育について

- 「食育」に「どちらかと言えば関心がある」
- 「食育に関する情報の入手先」は「テレビ・ビデオ」、「新聞・雑誌」、「インターネット」
- 保護者（回答者）の年齢別では、40歳代は特に「新聞・雑誌」を情報源としている
- 「豊中産農産物」を「食べた経験」は「わからない」。一方、「購入意向」は「ある」
- 「農体験への興味」は「ある」。「収穫作業の体験」、「収穫後の加工体験」、「栽培開始時期の作業体験」に特に関心がある。前回調査に比べて「収穫作業の体験」をあげる人が大幅に増加
- 「中学校給食に関する食育の取組」については「学校で給食を実施し、生徒全員が給食を食べれば

第2章 調査結果の概要

良い」

- 「非常食・保存食・飲料の備蓄状況」は「保存食や飲料はあるが、災害用としては備蓄していない」

豊中市食育推進計画について

- 「地域の食環境」は「買物の便利さ」や「食の安全」について肯定的な評価が多い
- 「豊中市食育推進計画」は「知らなかった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の意識の変化としては「生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を実現するように心がけるようになった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の環境の変化は「おいしく、楽しく、食事ができる機会が増えた」、「食育に関する正しい情報を得られやすくなった」、「外食などでバランスのとれた食事を取りやすくなった」

子どもの属性

- 「子どもの年齢」は、「0歳」から「5歳」まで均一的
- 「保育所・幼稚園の通所通園状況」は「通っていない」か、「幼稚園」、「保育所（園）」
- 「カウプ指数」は「標準（15～19未満）」
- 「子どもの体型」は「普通」と思う
- 「子どもの健康状態」は「とても健康である」

子どもの生活リズムについて

- 「起床時間と就寝時間」は「決まっている」
- 「睡眠時間」は「10時間以上11時間未満」、「9時間以上10時間未満」
- 「朝食の摂取状況」は「週に6、7日食べる」
- 「一緒に朝食を食べる人」は「家族のどれかと食べる」
- 「夕食時間」は「午後6時台」か、「午後7時台」
- 「夕食」は「全員で食べている」、「全員そろわないこともある」、「全員そろわないことの方が多い」
- 「主食・主菜・副菜がそろった食事」は「1日2回」
- 「主食・主菜・副菜がそろった食事を取らない理由」としては「好き嫌いのため」
- 「おやつ」は「時間や量を決めている」
- 「よく噛んで食べている」
- 「外食」は「月に1、2回する」
- 「子どもの食事での困りごと」が「ある」。特に、子どもが1歳以上の場合、食事での困りごとが発生する。その内容としては「遊び食い」、「偏食」、「食べるのに時間がかかる」、「むら食い」
- 食事の前に手を「洗う」
- 「食事の前後のあいさつ」は「(いただきます・ごちそうさま)どちらもする」
- 「離乳食で困ったこと」は「あった」、「なかった」同程度存在。ただし、前回調査に比べて「あった」が9ポイント増加。「困ったこと」の内容としては「食べるものの種類が偏っている」、「食べる量が少ない」、「作るのが苦痛・面倒」
- 「食への意識」が「妊娠を知ってから変わった」

子どものお口の健康について

- 「子どもの食べ方で気になること」が「ない」。「ある」場合の内容としては「あまり噛まずにすぐに飲み込む」で、前回調査に比べて大幅に増加
- 「噛む力に合わせた食事」を心がけている。前回調査に比べて「心がけている」人が16ポイント増加
- 「フッ化物塗布」を「受けている」
- 「歯科健診」を「受けていない」が若干多い
- 「むし歯」は「ない」。年齢があがるにつれて「むし歯があったが、治療済み」という割合が増加

2．少年期

豊中市の少年期：食育に関する特徴

（各設問の回答が多かったもの、特徴的なクロス集計結果及び過年度調査との特徴的な比較結果を記載）

- 「家族構成」は「親子」
- 回答者の「職業」は「パート・アルバイト」、「無職」、「会社員・公務員」。前回調査に比べて「無職」が増加
- 「主に家庭で食事づくりを担当する人」は「母」で、「就労している」。就労している場合は「パート・アルバイト」
- 「常勤」で働く人の1日あたり勤務時間は「8時間以上10時間未満」。「パート・アルバイト」で働く人の1週間あたり勤務日数は「3、4日」で、1日あたり勤務時間は「4時間以上6時間未満」
- 「学校保健統計調査方式肥満度判定」は「普通」。「子どもの体型」は「普通」と思う

【保護者】ふだんの食生活や子どもの食事について

- 「食材選定基準」は「価格」、「鮮度」、「安全・安心」、「賞味（消費）期限」
- 「参考とする指針」としては「3色分類」、「6つの基礎食品」、「食事バランスガイド」
- 「直接廃棄頻度」は、「時々ある」、「あまりない」が同程度存在
- 「食べ残しを減らす努力」を「必ずしている」
- 「環境への配慮」としては「食べきれぬ量だけ作る」、「食材や調理済み食品を適切に保存し、食べきる」、「必要な量だけ買う」、「旬の食材を使う」
- 「別メニューの食事」は「あまりない」
- 「外食の頻度」は「週に1、2回する」
- 「子どもの食事での困りごと」が「ある」。その内容としては「塾などで食事が一緒にできない」
- 「子どもの定期的な歯科健診」は「受けている」。前回調査に比べて13ポイント増加

【保護者】食育について

- 「食育」に「どちらかといえば関心がある」
- 「食育に関する情報の入手先」は「新聞・雑誌」、「テレビ・ビデオ」
- 保護者（回答者）の年齢別では、40歳代以上は「新聞・雑誌」を情報源としている
- 「豊中産農産物」を「食べた経験」は「わからない」。一方、「購入意向」は「ある」
- 「農体験の経験」は「ある」、「ない」が同程度存在。「経験したことがある農体験」は「収穫作業の体験」
- 「農体験への興味」は「ある」。「収穫作業の体験」、「栽培開始時期の作業体験」、「収穫後の加工体験」に特に関心がある
- 「中学校給食に関する食育の取組」については「学校で給食を実施し、生徒全員が給食を食べれば良い」
- 「非常食・保存食・飲料の備蓄状況」は「保存食や飲料はあるが、災害用としては備蓄していない」

【保護者】豊中市食育推進計画について

- 「地域の食環境」は「買物の便利さ」や「食の安全」について肯定的な評価が多い
- 「豊中市食育推進計画」は「知らなかった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の意識の変化としては「おいしく、楽しく、食事をするように心がけるようになった」、「生活リズムを整え、バランスのとれた食生活を心がけるようになった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の環境の変化は「食育に関する正しい情報を得られやすくなった」、「食べる物を大切にすることが多くなった」、「外食などでバランスのとれた食事を取りやすくなった」

【本人】生活リズムについて

- 「健康状態」は「とても健康である」、「自身の体型」は「普通」と思う
- 「起床時間と就寝時間」は「決まっている」。小学校6年生の睡眠時間は「8時間以上9時間未満」、中学校3年生は「7時間以上8時間未満」
- 「ストレス」は「感じていない」・「感じている」が同程度存在。中学生の方が小学生よりも「ストレスを感じている」。ただし、「ストレスを感じている」場合も、自分なりのストレス解消法は「ある」
- 「学校で眠くなること」は「ほとんどない」か、「週に2～3日眠くなる」
- 「朝食の摂取状況」は「週に6、7日食べる」。ただし、中学校3年生の女子は「朝食を食べない」が3.3%
- 「一緒に朝食を食べる人」については「家族のどれかと食べる」
- 「朝食を食べない理由」は「食欲がわからない」
- 「夕食時間」は「午後7時台」。夕食は「全員そろわないこともある」、「全員で食べている」
- 「全員で食べている」と回答した割合は、小学校6年生の方がより高い
- 「主食・主菜・副菜がそろった食事」は小学校6年生、中学校3年生ともに「1日2回」
- 「主食・主菜・副菜がそろった食事を取らない理由」としては「自分の好き嫌いのため」か、「家族が食事を準備できないため」

【本人】食事とおやつについて

- 「食事で大切だと思うこと」は「栄養のバランスがよいこと」、「おいしく食べること」
- 「食事が楽しいと思うとき」は「学校での昼食」、「夕食」、「外食をするとき」
- 「食事の時間に空腹感を感じている」
- 「好き嫌い」は「少しある」。嫌いな食べ物「がまんして食べる」
- 「食べ残し」については「時々ある」・「ほとんどない」が同程度存在
- 「おやつ」は「自分で作ること」が「全くない」。また、「おやつ」は「自分で購入することがある」
- 「おやつ」は「時間も量も決めていない」

【本人】食育について

- ☐ 「心身の成長のために心がけていること」は「友だちと楽しく過ごすこと」、「食事をきちんとすること」
- ☐ 食事の前に手を「洗う」。前回調査に比べて10ポイント増加
- ☐ 「食事の前後のあいさつ」は「(いただきます・ごちそうさま) どちらもする」
- ☐ 「食事の手伝い」を「している」。その内容としては「食べ終わった食器を引き上げる」、「食器を並べる」
- ☐ 「農体験への興味」は「餅つき」、「野菜の収穫」
- ☐ 「豊中産食材の給食への使用」について「知っている」(小学校6年生)

【本人】お口の健康について

- ☐ 「1日あたり歯みがき回数」は「2回」
- ☐ 「むし歯予防」のために「フッ素入り歯みがき剤」を使っている
- ☐ 歯科医院で「歯みがき指導」を「受けたことがある」
- ☐ 「むし歯の有無」は「むし歯があったが、治療済み」か、「ない」

3 . 青年・壮年・中年期

豊中市の青年・壮年・中年期：食育に関する特徴

（各設問の回答が多かったもの、特徴的なクロス集計結果及び過年度調査との特徴的な比較結果を記載）

- 「家族構成」は「親子」
- 「職業」は「会社員・公務員」, 「無職」, 「学生」
- 「BMI」は「18.5以上25未満（普通）」
- 中年期の男性では「25以上30未満（太り気味）」と「30以上（肥満）」を合わせると32.5%
- 青年期・壮年期の女性では「18.5未満（低体重）」が22.7%
- 「自身の体型」は「普通」と思うが、BMIが「18.5以上25未満（普通）」の場合でも、3割が自身の体型を「太り気味」と感じている
- 「健康状態」は「まあまあ健康である」
- 「主に家庭で食事づくりを担当する人」は「本人」で、「就労している」。就労している場合は「パート・アルバイト」, 「常勤」。前回調査に比べて「就労している」割合が大幅に増加

生活リズムについて

- 「起床時間と就寝時間」は「決まっている」
- 「睡眠時間」は「7時間以上8時間未満」, 「6時間以上7時間未満」
- 「朝食の摂取状況」は「週に6、7日食べる」。ただし、「孤食」が半数。前回調査に比べて孤食の割合が13ポイント増加。壮年期以上は「家族全員で食べる」
- 「朝食を食べない理由」は「時間がない」, 「食欲がわかない」
- 「夕食時間」は「午後7時台」
- 「夕食」は「全員そろわないことの方が多い」・「全員で食べている」が同程度存在。前回調査に比べて「全員そろわないことの方が多い」が10ポイント増加
- 「メタボリックシンドローム」は「内容を知っている」

食事について

- 「食材選定基準」は「価格」, 「鮮度」, 「賞味（消費）期限」で、年齢が高くなると気にする傾向がみられる。前回調査に比べて「価格」をあげる人が12ポイント増加。一方、「安全・安心」をあげる人は12ポイント減少
- 「参考とする指針」としては「食事バランスガイド」, 「3色分類」, 「6つの基礎食品」
- 「直接廃棄頻度」は「あまりない」
- 「食べ残しを減らす努力」を「必ずしている」
- 「環境への配慮」として、「必要な量だけ買う」, 「食べきれぬ量だけ作る」, 「食材や調理済み食品を適切に保存し、食べきる」
- 「別メニューの食事」は「あまりない」。前回調査に比べて9ポイント増加

第2章 調査結果の概要

- 「主食・主菜・副菜がそろった食事」は1日「1回」「2回」が同程度存在
- 「主食・主菜・副菜がそろった食事を取らない理由」は「自分や家族が食事を準備できないため」
- 「弁当や総菜の購入頻度」は「時々買う」
- 「家庭での食生活の様子」は「おいしく食べられる」

食育について

- 「食育」に「どちらかといえば関心がある」。青年期ではあまり関心がない
- 「食育に関する情報の入手先」は「テレビ・ビデオ」、「新聞・雑誌」
- 「豊中産農産物」を「食べた経験」は「わからない」。一方「豊中産農産物」の「購入意向」はある
- 「農体験への興味」は興味がない。ただし、「収穫作業の体験」には関心がある人も
- 「中学校給食に関する食育の取組」については「学校で給食を実施し、生徒全員が給食を食べれば良い」
- 「非常食・保存食・飲料の備蓄状況」は「保存食や飲料はあるが、災害用としては備蓄していない」
- 「食事の準備」は「買い物から調理までできる」
- 「メニューや調理」を教わった相手は「母親」
- 「メニューや調理」を教える相手は「特に教えることはない」か、「自分の子ども」
- 食事の前に手を「洗う」
- 「食事の前後のあいさつ」は「(いただきます・ごちそうさま) どちらもする」
- 「食事が楽しいと思うとき」は「家での食事」、「友人との会食」
ただし、壮年期の男性は「家での食事」、壮年期の女性では「友人との会食」という違いも

外食について

- 「外食の頻度」は「月に数回」。前回調査に比べて10ポイント増加
- 「うちのお店も健康づくり応援団」マークは「見たことがない」
- 「ヘルシーメニューの提供」を「希望する」

お口の健康について

- 「食べ方への関心」について「どちらかというに関心がある」
- 「よく噛んで、味わって食べている」
- ただし、BMIが「25以上30未満(太り気味)」の人は「よく噛んで、味わって食べていない」という回答が6割
- 「よく噛むことが肥満予防になること」は「知っている」。青年期では「知っている」人は少なめ
- 「糖尿病と歯周病の関係性」は「知らなかった」
- 「定期的な歯科健診の受診」については「受けていない」

豊中市食育推進計画について

- 「地域の食環境」は「買物の便利さ」や「食の安全」について肯定的な評価が多い
- 「豊中市食育推進計画」については「知らなかった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の意識の変化としては「生活リズムを整え、バランスのとれた食生

活を実現するように心がけるようになった」、「食べる物を大切にするように心がけるようになった」、「歯や口の健康に関心を持つようになった」

- 「豊中市食育推進計画」策定後の環境の変化としては「食育に関する正しい情報を得られやすくなった」、「食の安全面で信頼できるお店や生産者が増えた」、「歯や口の健康についての情報を得やすくなった」

4 . 高年期

豊中市の高年期：食育に関する特徴

(各設問の回答が多かったもの、特徴的なクロス集計結果及び過年度調査との特徴的な比較結果を記載)

- ☐ 「家族構成」は「夫婦のみ」。前回調査に比べて「ひとり暮らし」が4ポイント増加
- ☐ 「職業」は「無職」
- ☐ 「BMI」は「18.5以上25未満(普通)」。前回調査に比べて「適正(18.5～25未満)」、「肥満(25以上)」が2～3ポイント減少
- ☐ 「自身の体型」は「普通」と思う
- ☐ 「健康状態」は「まあまあ健康である」
- ☐ 「主に家庭で食事づくりを担当する人」は「本人」か、「配偶者」で、「就労していない」。就労している場合は「パート・アルバイト」

生活リズムについて

- ☐ 「起床時間と就寝時間」は「決まっている」
- ☐ 「睡眠時間」は「8時間以上9時間未満」「7時間以上8時間未満」が同程度存在
- ☐ 「朝食の摂取状況」は「週に6、7日食べる」、「ひとりで食べる」。ただし、女性は「孤食」が多め
- ☐ 前回調査に比べて「ひとりで食べる」が11ポイント増加
- ☐ 「朝食を食べない理由」は「食欲がわかない」、「朝食を食べるより寝ていたい」。ただし、前回調査に比べて「食欲がわかない」割合は減少
- ☐ 「夕食時間」は「午後6時台」
- ☐ 「夕食」は「全員で食べている」
- ☐ 「メタボリックシンドローム」について「内容を知っている」

食事について

- ☐ 「食材選定基準」は「鮮度」、「賞味(消費)期限」、「安全・安心」、「価格」で、女性の方が気にする
- ☐ 「参考とする指針」としては「食事バランスガイド」、「3色分類」、「6つの基礎食品」
- ☐ 「直接廃棄頻度」は「あまりない」
- ☐ 「食べ残しを減らす努力」を「必ずしている」
- ☐ 「環境への配慮」として、「食べきれぬ量だけ作る」、「食材や調理済み食品を適切に保存し、食べきる」
- ☐ 「別メニューの食事」は「あまりない」
- ☐ 「主食・主菜・副菜がそろった食事」は「1日2回」
- ☐ 「主食・主菜・副菜がそろった食事を取らない理由」は「自分の好き嫌いのため」、「自分や家族のアレルギーや病気のため」、「自分や家族が食事を準備できないため」
- ☐ 「弁当や総菜の購入頻度」は「時々買う」

- 「家庭での食生活の様子」は「おいしく食べられる」、「食事に満足」、「食べたいものを食べる」

食育について

- 「食育」に「どちらかというに関心がある」。ただし、前回調査に比べて「関心がある」が10ポイント減少
- 「関心がある」女性の割合は男性よりも10ポイント程高い
- 「食育に関する情報の入手先」は「テレビ・ビデオ」、「新聞・雑誌」
- 「豊中産農産物」を「食べた経験」は「わからない」
- 「豊中産農産物」の「購入意向」が「ある」。女性の方がより購入したがつている
- 「農体験への興味」は興味が「ない」。ただし、「栽培開始時期の作業体験」、「収穫作業の体験」には関心がある人も
- 「中学校給食に関する食育の取組」については「学校で給食を実施し、生徒全員が給食を食べれば良い」
- 「非常食・保存食・飲料の備蓄状況」は「保存食や飲料はあるが、災害用としては備蓄していない」
- 「食事の準備」は「買い物から調理までできる」
- 「メニューや調理」を教わった相手は「母親」
- 「メニューや調理」を教える相手は「特に教えることはない」か、「自分の子ども」、「知人・近所の人」
- 食事の前に手を「洗う」
- 「食事の前後のあいさつ」は「(いただきます・ごちそうさま) どちらもする」
- 「食事が楽しいと思うとき」は「家での食事」
- 「外食の頻度」は「月に1、2回する」
- 「うちのお店も健康づくり応援団」マークは「見たことがない」
- 「ヘルシーメニューの提供」を「希望しない」

介護予防について

- 「低栄養」については「知らない」。男女別にみると、女性では、「知っている」割合がより多い
- 「低栄養」の認知度は、前回調査に比べて「知っている」が大幅に減少
- 「1日あたり食事回数」は「3回」。ただし、前回調査に比べて「3回」が6ポイント減少

お口の健康について

- 「8020運動」という言葉は「知っている」。男女別では、女性の方が「知っている」と答えた割合が多い
ただし、前回調査に比べて「知っている」が13ポイント減少
- 「定期的な歯科健診の受診」については「受けている」が半数。前回調査に比べて6ポイント増加
- 「お口の手入れの習慣」がついている項目は「歯」、「義歯(入れ歯)」
- 「誤嚥性肺炎」という言葉は「知っている」。女性の方がより「知っている」。前回調査に比べて10ポイント増加
- 「食べ方への関心」について「関心がある」。女性の方がより関心が高い

第2章 調査結果の概要

- 「よく噛んで、味わって食べている」
- 「飲食時の不調」については「特にない」
- 「口の渇き」は「気にならない」。前回調査に比べて「気になる」人は9ポイント減少

豊中市食育推進計画について

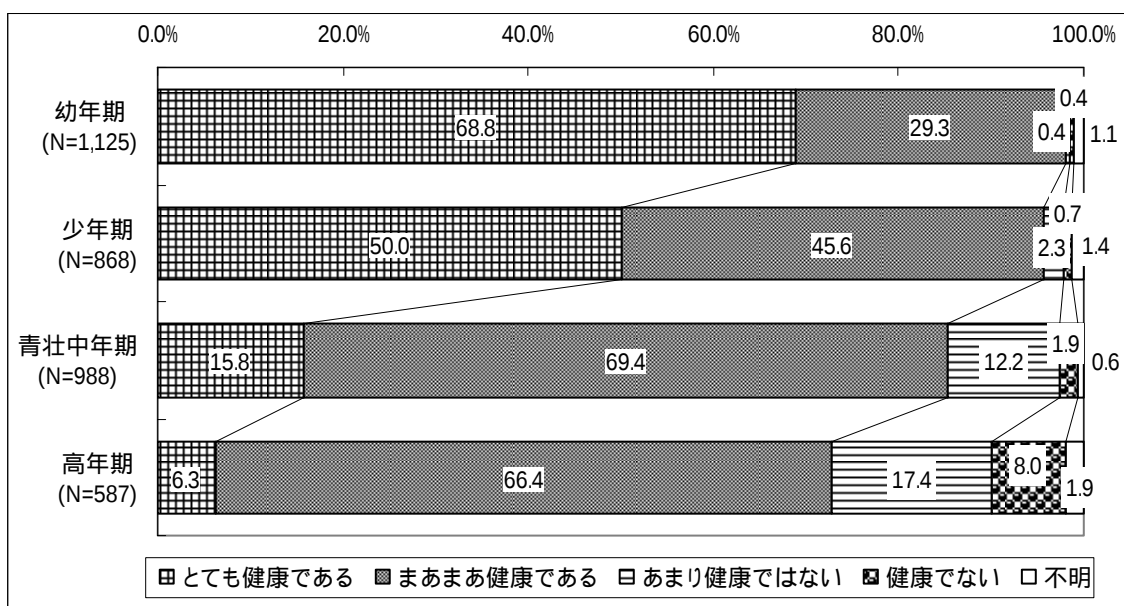
- 「地域の食環境」は「買物の便利さ」や「食の安全」について肯定的な評価が多い
- 「豊中市食育推進計画」については「知らなかった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の意識の変化としては「おいしく、楽しく、食事をするように心がけるようになった」
- 「豊中市食育推進計画」策定後の環境の変化としては「食べる物を大切にする人が多くなった」、「歯や口の健康についての情報を得やすくなった」

5 . 世代間比較

健康状態

- 健康状態については、幼児期や少年期では、半数以上が「とても健康である」としているのに対し、青年・壮年・中年期は半数以上が「まあまあ健康である」としています。

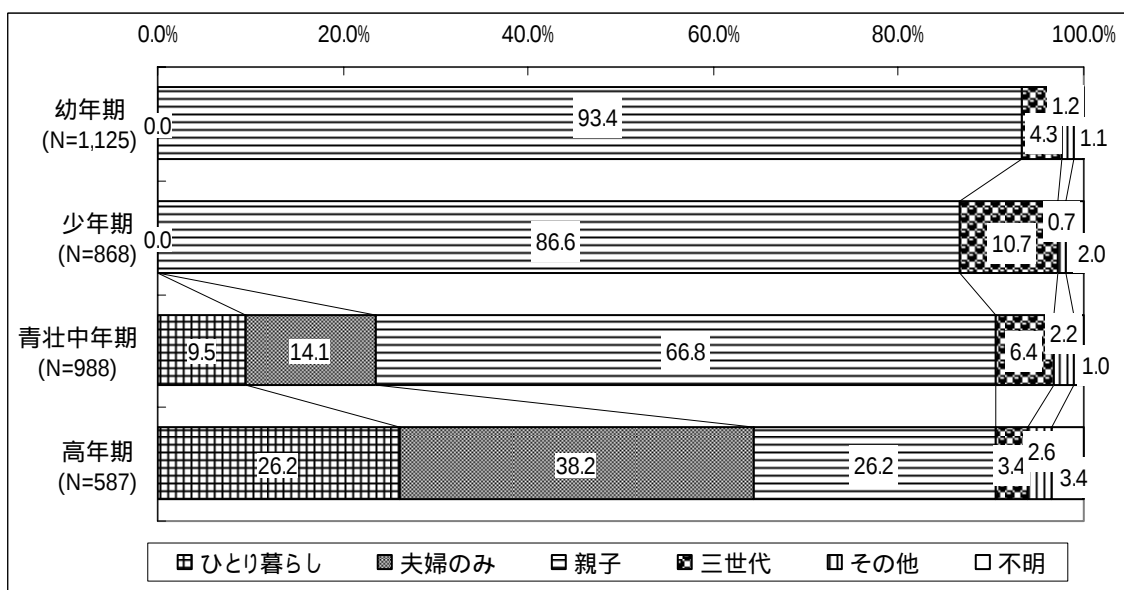
図表 1 健康状態



家族構成

- 家族構成をみると、幼年期、少年期は大半が「親子」となっています。青年・壮年・中年期でも「親子」が多くなっていますが、高年期では、「夫婦のみ」、「ひとり暮らし」が多くなっています。

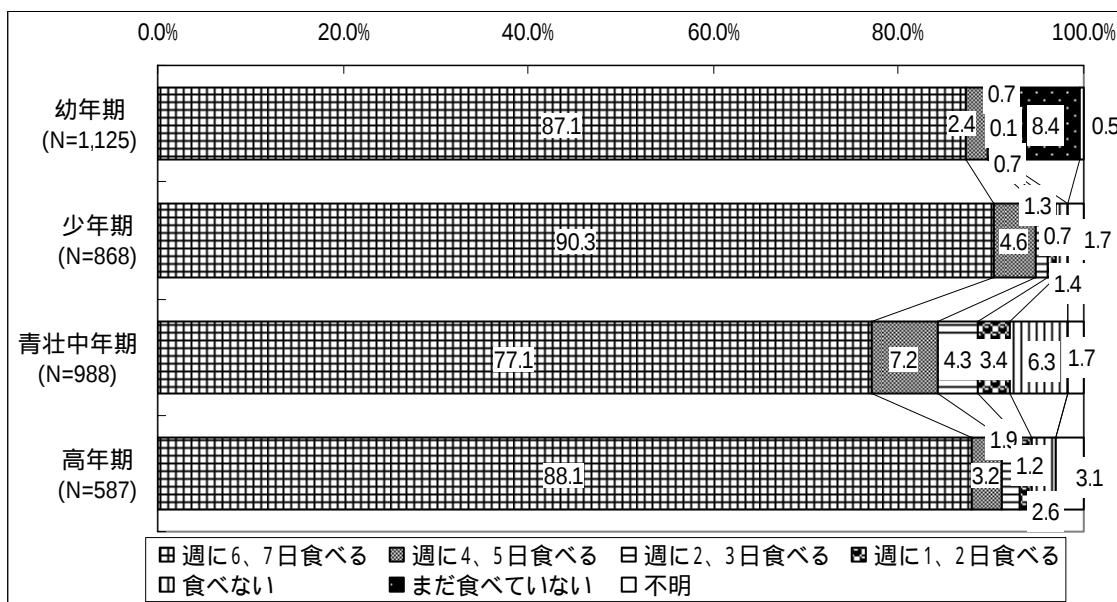
図表 2 家族構成



朝食の有無

- 朝食の摂取状況については、青年・壮年・中年期以外は、大半が「週に6、7日食べる」としてはいますが、青年・壮年・中年期は「食べない」「週に1、2日食べる」など朝食を食べない傾向の人が他に比べてやや多くなっています。

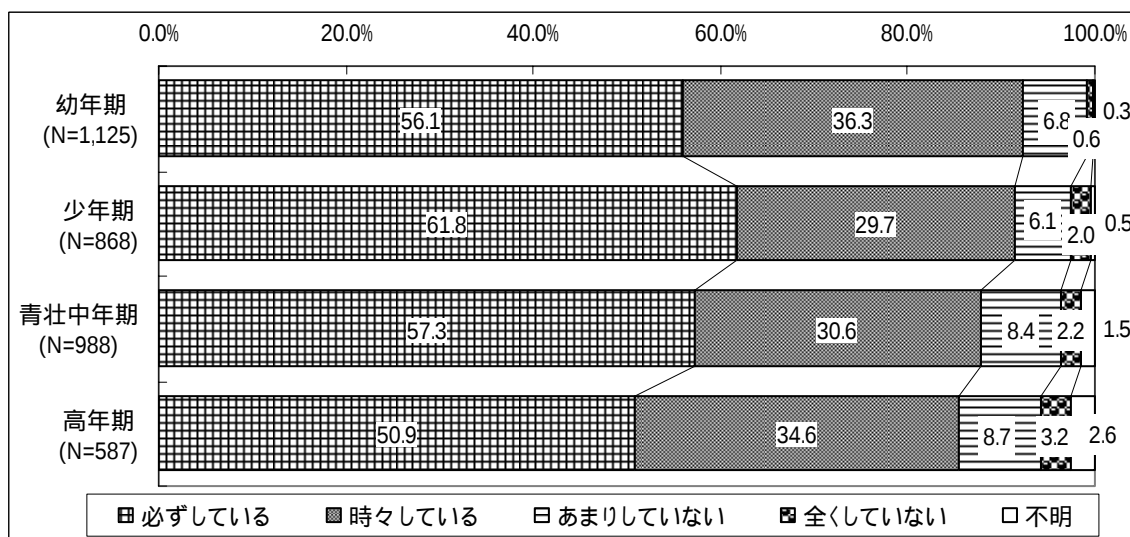
図表 3 朝食の有無



食べ残しを減らす努力

- 食べ残しを減らす努力については、おおむねどの世代も「必ずしている」、「時々している」といったように努力している人が大半を占めています。

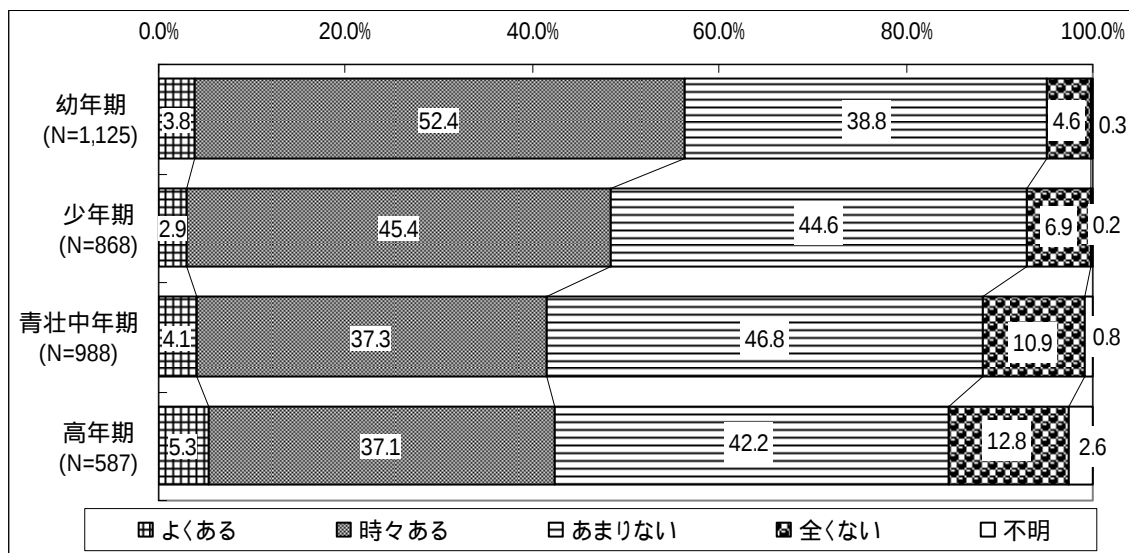
図表 4 食べ残しを減らす努力



直接廃棄頻度

- 直接破棄頻度については、幼年期では、「よくある」または「時々ある」といったように比較的廃棄頻度が高い人が、「あまりない」または「全くない」といった比較的廃棄頻度が低い人を上回っていますが、少年期、青年・壮年・中年期、高年期では比較的廃棄頻度が低い人が多くなっています。

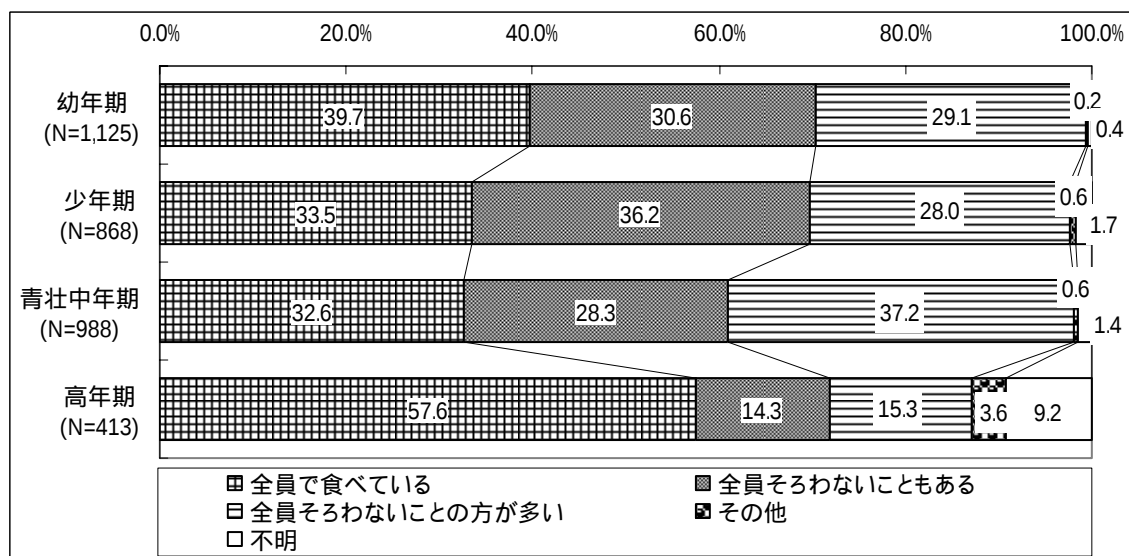
図表 5 直接廃棄頻度



家族でそろった夕食の有無

- 夕食時に家族そろって食事をするかどうかについては、高年期では半数以上が「全員で食べている」としてはいますが、それ以外では「全員で食べている」のは、3～4割にとどまっています。

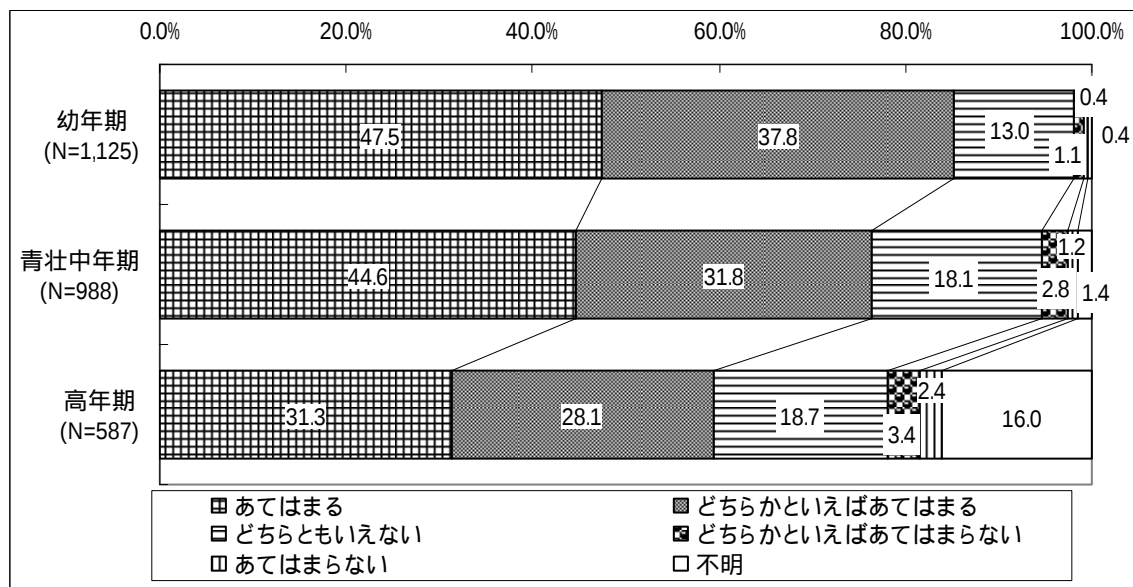
図表 6 家族でそろった夕食の有無



家庭での食事の様子（楽しい）

- 家庭での食事の時間が楽しいかどうかについては、幼年期、青年・壮年・中年期は大半が「あてはまる（楽しい）」、「どちらかといえばあてはまる（どちらかといえば楽しい）」をあげていますが、高年期では、「あてはまる」人が他に比べて10ポイント以上低くなっています。

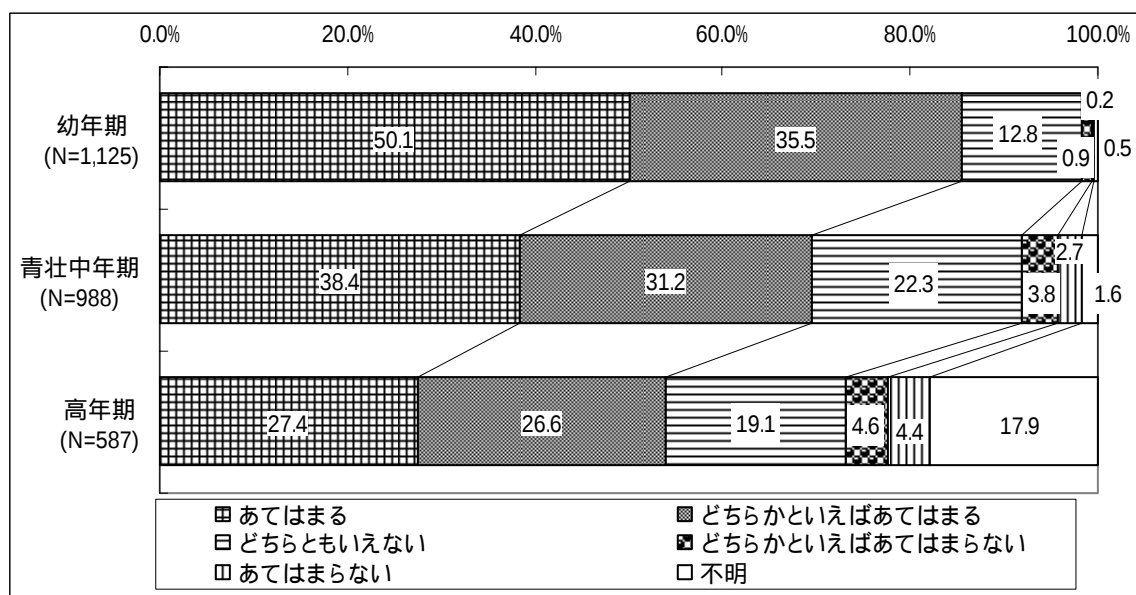
図表 7 家庭での食事の様子（楽しい）



家庭での食事の様子（明るい）

- 家庭での食卓の雰囲気が明るいかどうかについては、幼年期、青年・壮年・中年期は大半が「あてはまる（明るい）」、「どちらかといえばあてはまる（どちらかといえば明るい）」をあげていますが、高年期では、「あてはまる」人が他に比べて10ポイント以上低くなっています。

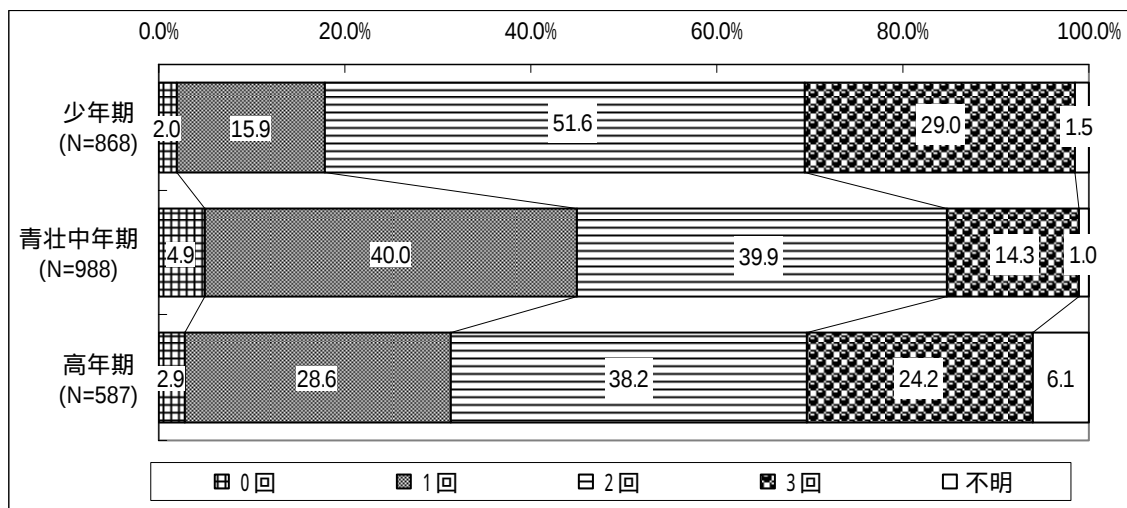
図表 8 家庭での食事の様子（明るい）



主食・主菜・副菜がそろった食事の頻度

- 主食・主菜・副菜がそろった食事の頻度については、少年期、高年期で「2回」が最も多くなっていますが、青年・壮年・中年期では「1回」と「2回」が同じ割合となっています。

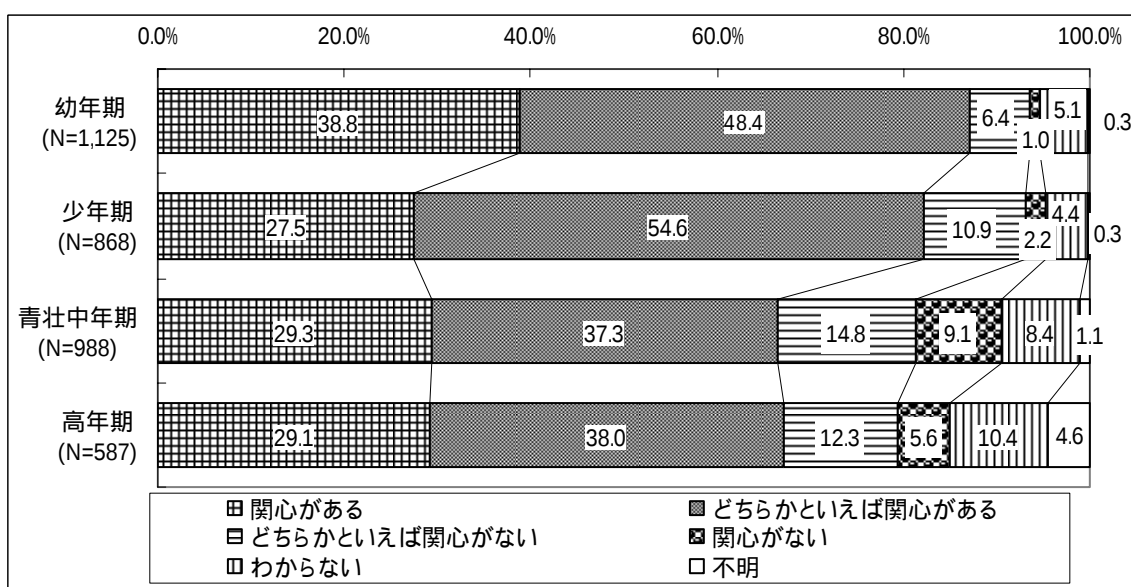
図表 9 主食・主菜・副菜がそろった食事の頻度



食育への関心

- 食育への関心については、幼年期、少年期では比較的関心がある人が多くなっていますが、青年・壮年・中年期、高年期では「わからない」という人が多くなっています。

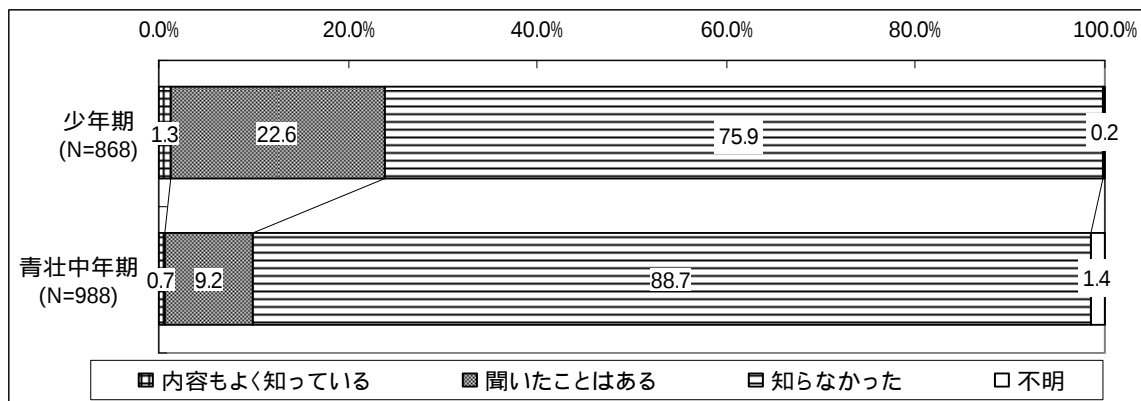
図表 10 食育への関心



豊中市食育推進計画の認知度

- 豊中市食育推進計画の認知度については、「知っている」人は、少年期で約2割、青年・壮年・中年期で約1割となっています。

図表 11 豊中市食育推進計画の認知度



豊中市食育推進計画の策定後の意識の変化

- 豊中市食育推進計画の策定後の意識の変化については、少年期、青年・壮年・中年期では、約半数が「特になし」としていますが、高年期では、「食べる物を大切にする人が多くなった」、「歯や口の健康についての情報を得やすくなった」、「外食などでバランスのとれた食事を取りやすくなった」をあげる人が多くなっています。

図表 12 豊中市食育推進計画の策定後の意識の変化

